

公衆衛生学小テスト問題の解説

問題：以下の文 (a) ~ (z) のうち、正しいものの記号を書き出してください。正しい回答 1 つにつき 2 点を加点し、間違った回答 1 つにつき 2 点を減点します。ただし下限を 0 点、上限を 20 点とします。

- (a) 公衆衛生学も衛生学も、集団の健康についての学問だが、公衆衛生学がヨーロッパ生まれの基礎科学であるのに対して、衛生学はアメリカ生まれの応用科学で、もともと政策的側面を含んでいる。 逆
- (b) WHO 憲章の健康定義は、「健康は身体的にも精神的にも社会的にも完全に良好な状態をいい、単に病気がないとか病弱でないということではない」である。 正解
- (c) 集団の健康を知るためのモノサシを健康指標といい、病気や死の多少によって間接的に評価しようとする指標よりも、直接的に健康を測る指標が中心である。 間接指標が中心
- (d) 公衆衛生行政には、主に厚生労働省が所管する一般公衆衛生行政と労働衛生行政、主に文部科学省が所管する学校保健行政、主に環境省が所管する環境保健行政がある。 正解
- (e) 保健所は、地域保健法により、都道府県、地域保健法施行令によって指定された市（政令市）だけが設置する。 東京 23 区も設置する
- (f) 厚生労働省の予算は、国の一般会計予算の約 10 分の 1 である。 5 分の 1 である。
- (g) 医療保険は、被用者保険と国民健康保険に大別される。国民健康保険の場合、被保険者が国となる。被保険者が国となる。被保険者は 4 種類。
- (h) 地域保健は、総合保健 / 包括医療的な考え方で、地域住民がその生活基盤の中で自らの健康の保持増進を図れるように必要な保健技術を地域社会に見合った形で組織的に提供し、その健康生活を支援していく一連の活動過程であり、1960 年代以降、世界的に提唱されてきた。 正解
- (i) プライマリヘルスケアはオタワ宣言で初めて提唱された。 プライマリヘルスケアはアルマアタ宣言、オタワ宣言はヘルスプロモーション
- (j) 合計出生率は、英語で Total Fertility Rate (TFR) と呼ばれる概念の訳語であり、年齢（または年齢 5 歳階級）別の女子人口でその年齢（または年齢 5 歳階級）の女子による出生数を割った値を、全年齢について合計したもの（年齢 5 歳階級の場合は合計して 5 倍したもの）である。日本の少子化問題で 1.38 などという数字が挙げられるのは、この値である。 正解
- (k) 出生 1000 当たりの生後 1 年未満の死亡数を新生児死亡率という。年齢調整死亡率、平均寿命と並んで、地域の衛生状態をあらわす 3 大指標の 1 つであり、生活文化水準を反映する指標として国際比較にも使われる。 新生児死亡率でなく乳児死亡率
- (l) 妊娠、分娩、産褥に直接関連する疾病や異常によって母性が死亡した場合を「妊産婦死亡」または「母性死亡」といい、妊産婦死亡率は出産または出生 10 万当たりで表す。1999 年日本は出生 10 万あたり 6.1 できわめて低い。主な死因は出血と妊娠中毒症である。 正解
- (m) 母子保健行政は、健診事業（妊婦健康診査、乳児健康診査、1 歳 6 ヶ月児健康診査、3 歳児健康診査）、保健指導、医療援護、基盤整備の 4 つを柱とする。 正解
- (n) 学校保健のうち、保健指導とは、教科で直接的・計画的に行われる学習を指す。 保健指導とは課外で行われるものであり、教科で行われるのは保健学習。
- (o) 個人の努力だけで社会環境の変化に適切に対処することは難しいので、精神的健康を守るためには社会的・組織的援助が必要であり、それが精神保健の課題である。 正解
- (p) 精神的健康度の評価の目的は、曖昧に把握されがちな精神的健康度に対して、全世界どこでも通用するような、正常・異常・健康・不健康という画一的評価を確立することである。 画一的評価をすることではなく、ある程度の定量的な評価をすることでどのように支援すればいいかという対策を立てることにつなげるのが目的。
- (q) 精神障害の受療率は、40 歳から 59 歳で高くなっていて、85 歳以上の高齢者では低い。 85 歳以上の受療率が高い。
- (r) 予防医学には、一次予防、二次予防、三次予防とあるが、このうち一次予防は非特異的予防としての健康増進を指し、二次予防は特異的予防を指し、三次予防は早期発見と早期治療を指す。 一次予防が狭義の予防、二次予防が早期発見と早期治療で、三次予防が悪化や後遺症を防ぎリハビリテーションにより社会復帰させること
- (s) 老化現象について総合的に取り組む学問分野を老年学と呼び、その研究の結果として、老化には生理的老化（健康老化）と病的老化があって、前者は不可避なので、後者をできるだけなくそう、といわれるようになってきた。 正解
- (t) 1957 年に成人病予防対策教義連絡会が厚生省に設置されたときから、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患などの成人・老年期に多く特徴的な疾患は、成人病と呼ばれるようになった。日本では、1951 年に結核を抜いてからはずっと心疾患が死因の 1 位だったが、減塩運動などのおかげで近年激減し、1980 年代に悪性新生物や脳血管疾患よりも死亡率が低くなった。 1951 年からはずっと死因の 1 位だったのは脳血管疾患。心疾患は 1985 年に脳血管疾患を抜いて 2 位になった。
- (u) 1997 年から厚生省公衆衛生審議会の提案により、それまで成人病と呼ばれていた疾病は生活習慣病と呼ばれるようになったが、非特異的かつ不可逆的な疾患で、多因子であるのが特徴であり、決して個人の生活習慣だけに起因するものではないので、むしろ英語圏で呼ばれるように慢性疾患 (chronic disease) とか、ありふれた病気 (common disease) という方が実態に即している。 正解

- (v) 日本で 65 歳以上の高齢者がいる世帯の数は最近 25 年間に倍増し，2000 年には全国で 1500 万世帯を超えていて，全世帯の約半数である。 1500 万世帯は全世帯の約半数ではなく，約 3 分の 1 である。
- (w) 全国から無作為抽出した対象世帯の全世帯員について，何らかの自覚症状があると答えた人の割合（人口 1000 対）を有訴者率というが，65 歳以上では男女とも約半数に達している。症状の 1 位は男性が腰痛，女性が肩こりである。 正解
- (x) 国際協力で重要とされる適正技術とは，現地の人が使えて現地の人メンテナンスでき，現地の経済力で維持可能な技術支援をいう。 正解
- (y) 1854 年にロンドンのブロードストリートで大流行があった際に，コレラ死亡者の発生地図，死亡の日別分布表を作成し，詳細な症例検討を加えて，流行の原因となった共同井戸のコレラ菌汚染を突き止めた Snow の研究は，介入研究の草分けである。 介入研究でなく，記述疫学研究の草分けであり，金字塔である。
- (z) 疾病指標の標準化とは，通常，集団によって年齢構造が異なることの影響を取り除くために，年齢によって層別して重み付き平均にすることをいう。 正解